



## 《第163回 芥川賞・直木賞受賞作発表》

7月15日に、第163回芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました(^)/芥川賞には高山羽根子さんの『首里の馬』と遠野遥さんの『破局』が、直木賞には馳星周さんの『少年と犬』がそれぞれ選ばれました☆この3作は図書館でも入荷予定なので、ぜひお楽しみに(^)♪

### 芥川賞受賞作

『首里の馬』 高山 羽根子【著】 (新潮社)



沖縄の古びた郷土資料館に眠る数多の記録。中学生の頃から資料の整理を手伝っている未名子は、世界の果ての遠く隔たった場所にいるひとたちにオンライン通話でクイズを出題するオペレーターの仕事をしていて。ある台風の前夜、幻の宮古馬が庭に迷いこんできて…。世界が変貌し続ける今、しずかな祈りが切実に胸にせまる感動作。

\*沖縄が歩んできた苦難の歴史が物語の背後にあることが感じられ、かつ資料館の閉鎖がきっかけで未名子が始めた「沖縄の情報を記録すること」の意義が浮かび上がる。

『破局』 遠野 遥【著】 (河出書房新社)



欲望を捨て、感情のゾンビになれ——母校のラグビー指導、公務員試験、そして新たな恋。順調な私を阻むものは、私自身に他ならない。

\*著者の母校である慶應義塾大学が舞台であり、2人の女性に翻弄され、「破局」へ傾いていく主人公の姿を描く。

### 直木賞受賞作

『少年と犬』 馳 星周【著】 (文藝春秋)



2011年秋、仙台。震災で職を失った和正は、認知症の母とその母を介護する姉の生活を支えようと、犯罪まがいの仕事をしていて。ある日和正は、コンビニで、ガリガリに痩せた野良犬を拾う。多間という名らしいその犬は賢く、和正はすぐに魅了された。その直後、和正はさらにギャラのいい窃盗団の運転手役の仕事を依頼され、金のために引き受けることに。そして多間を同行させると仕事はうまくいき、多間は和正の「守り神」になった。だが、多間はいつもなぜか南の方角に顔を向けていた。多間は何を求め、どこに行こうとしているのか。

\*愛犬家である著者だからこそ描くことのできる、犬と人間の絆や、犬に対する愛情・尊敬・感謝の気持ちを感じ取れる。